

**平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和元年 12 月
海老名市立有鹿小学校**

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

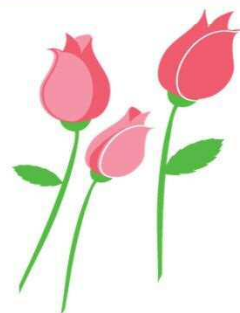
- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

平成 31 年 4 月 18 日（木）



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方や工夫を捉える
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
- ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
- ・目的に応じて、質問を工夫する
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

○昼職人へのインタビューの様子を表した問題では、次のような設問によく答えることができていました。

- ・自分の理解が正しいかどうかを確認するには、どのように質問したらよいか。
- ・相手が答えにくい様子の時に、質問者はどのように工夫したらよいか。

○漢字を文の中で正しく使うことや文と文との意味のつながりを考えて接続語を使うこと、ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることがよくできていました。

- ・ことわざ「習うより慣れよ」

◆課題のある点

○公衆電話について調べたことを報告する文章を書く問題では、次のような条件に合わせた文章を書くことに課題が見られました。

- ・2つの調査結果から言葉や文を取り上げて書く。
- ・報告する文章にふさわしい表現で書く。
- ・書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内にまとめて書く。

○次の漢字を書く問題では、正答率が全国に比べ高かった一方で、無解答率も高く、漢字の習熟度に個人差があることが分かりました。

- ・対象、限（らず）、関心

今後の具体的な指導改善のポイント

「条件に合わせた文章を書く力」を伸ばすために、次のように取り組みます。

低学年	中学年	高学年
文章を書くための基礎的な知識の学習に力を入れていきます。 ○主語・述語の関係を考えて書く。 ○「」や句読点を正しく使って書く。	説明文を中心に、要点を押さえた文章を書く学習を取り入れていきます。 ○指定された言葉（キーワード）を使って書く。 ○文章を短くまとめる。	要旨をまとめ、簡潔に分かりやすく書く学習を取り入れていきます。 ○文を引用して書く。 ○指定された文字数の範囲で書く。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・台形について理解している
- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
- ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる
- ・2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる
- ・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる
- ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる
- ・示された除法の式の意味を理解している
- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
- ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述し、その結果から判断できる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 資料の特徴や傾向を関連づけて、その理由を記述することがよくできていました。

・水の使用量と人口の変化に関する2つのグラフから一人当たりの水の使用量について分かることを選び、選んだわけを書く。

- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算が正確にできていました。

・ $6+0.5\times 2$

◆課題のある点

- 台形の、定義・性質の理解や、辺や角の大きさなどに着目して図形を組み合わせることに課題が見られました。

・4つの四角形の中から台形を選ぶ。
・2つの合同な台形を組み合わせてできる形を選ぶ。(右図は正答の1つ)



- 示された除法の式が求めているものを選ぶ問題では、計算式への理解に課題が見られました。

・リボン1m分の代金を求める式 $180\div 0.6$ をもとに、 $1800\div 6$ の式がリボン何m分の代金を求めているかを選ぶ。

今後の具体的な指導改善のポイント

「図形の定義や性質を理解し、正しく使う力」を伸ばすために、次のように取り組みます。

低学年	中学年	高学年
日常生活における様々な図形に対する感覚を養う学習に力を入れていきます。 ○具体物に触れながら、図形を理解させる。 ○具体物を並べたり、敷き詰めたしながら性質を理解する。	図形についての基礎的な知識の学習に力を入れていきます。 ○定義や性質をしっかりと理解し、説明できるようにする。	図形の定義や性質の理解を深める学習を取り入れていきます。 ○定義や性質を使いながら、問題の解き方を説明する。
どの学年においても、タブレット型パソコンを効果的に使い、図形の操作をしたり説明をしたりすることで、具体物と抽象的な概念をつなげていきます。		

児童質問紙

学習・生活について

◆本校のよかったところ

○「読書は好きですか」

【結果】8割以上の児童が肯定的に回答しました。また、他の質問からは、普段（月曜日から金曜日）から学校の授業時間以外に読書をしていたり、学校図書館や地域の図書館を利用したりしている児童が多いことも分かりました。

【分かること】読書習慣が身に付いてきています。

○「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」

【結果】毎日や週1回以上使用していると回答した児童が多く、全国平均と比べかなり高い結果となりました。

【分かること】タブレット型パソコンなどのICT機器に触れる機会が多く、児童の学習に定着してきています。

○「国語の授業の内容はよく分かる」

【結果】約9割の児童が当てはまるやどちらかといえば当てはまると回答しました。国語の調査結果でも、全国の平均を上回っている項目が多いことが分かりました。

【分かること】児童の「分かる」という認識と、学力状況が一致しています。

◆本校の課題と思われるところ

○「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

【結果】肯定的に回答した児童の割合が全国平均に比べ低い結果となりました。自発的に学習や生活の目標を立てて活動することや、話し合いを基に自分の考えを深めたり、実行したりすることに苦手意識を感じている児童が多いことが分かりました。

【分かること】課題に対し自分から取り組むことや、話し合い活動によって解決することに自信がもてるようにしていく必要があります。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

【結果】肯定的に回答した児童の割合が全国平均に比べて低い結果となりました。その他の規範意識に関する設問への回答からも、規範に対する意識がやや低いことが分かりました。

【分かること】ルールやモラルに対する認識を改善する必要があります。

今後の具体的な取組について

「話し合いの中で自らの考えをもち、深められる力」を伸ばすために、次のような取り組みをしていきます。

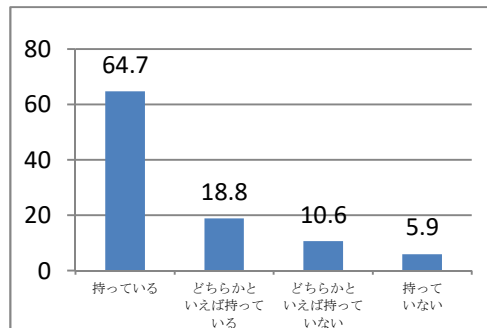
低学年	中学年	高学年
教科の授業の中で話し合う学習に力を入れていきます。 ○少人数(2～3人)の話し合い活動を多く取り、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする機会を増やす。	教科の授業の話し合う学習の中で、様々な役割を経験させる学習を取り入れていきます。 ○班の中で司会者や発表者を立てて話し合いをする機会を増やす。	教科の授業の中で、話し合いの内容を深める学習に力を入れていきます。 ○自分の意見を明確にもち、相手の意見と比べながら話し合いをする機会を増やす。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 お子さんの夢や目標を応援しましょう。

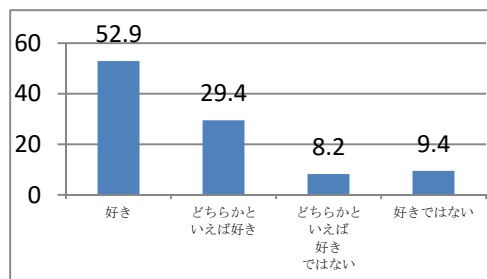
夢や目標をについて語り合い、それに向かう気持ちをもつことで生活が充実し、継続的に努力する力につながります。



将来の夢や目標を持っていますか。

2 多くの本に触れ、読書を楽しみましょう。

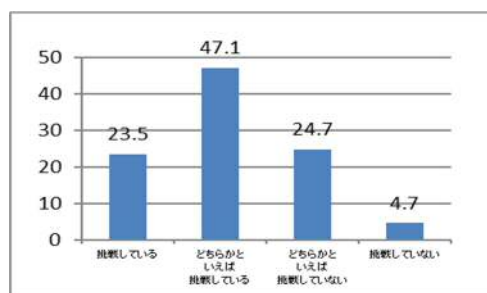
有鹿小学校の子どもたちは読書が大好きです。読書をすることは、国語だけでなくすべての学力につながり、創造力や集中力が高まります。



読書は好きですか。

3 自分で考え、取り組む機会を増やしましょう。

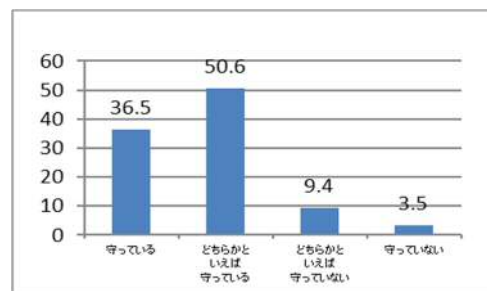
自分で考えて決め、工夫して取り組む機会を増やすことで、粘り強さや挑戦する気持ちが養われます。



難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

4 きまりを守る大切さを話し合ひましょう。

家庭や学校、社会のきまりをしっかり守ることができるよう、意義や現状についてぜひ話し合ってみてください。



学校のきまりを守っていますか。

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様により市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

